

平成 24 年度岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程【2月募集】入学試験問題

講 座	言語情報論
専門科目 2	日本語試験

問題 1 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

(坂本正ほか著『多様化する言語習得環境とこれからの日本語教育』スリーエーネットワーク、5-7頁)

問 1 筆者は「言葉の習得」とはどのようなことであると述べているか、簡潔に説明しなさい。

問 2 「意味論的意味」と「語用論的意味」の違いについて、本文の趣旨を踏まえて述べなさい。

問 3 本文中に述べられている「言語形式の余剰的な側面」について、他の事例を挙げて説明しなさい。

問 4 「言語習得」と「言語習得環境」の関係について、本文の趣旨を踏まえて説明しなさい。

問題2 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

(高橋太郎ほか著『日本語の文法』ひつじ書房、113-114頁)

問1 空欄 a～d に入る例文を次の中から1つずつ選びなさい。たとえば、空欄 a に例文 1 が入ると思う場合は、「a-1」のように書きなさい。例文は1度しか使えません。

- 1 「うちでは、いま梅の実がなっています」
- 2 「彼女は昨日 100メートルを 14秒でしか走れなかった」
- 3 「去年は梅の実がならなかった」
- 4 「うちの梅の木は、毎年6月になると、たくさん実をつけます」

問2 空欄ア～カに「ポテンシャル」か「アクチュアル」のいずれかを入れなさい。「ポテンシャル」が入る箇所には「P」、「アクチュアル」が入る箇所には「A」と答えなさい。たとえば、空欄アに「ポテンシャル」が入ると思う場合は、「ア-P」のように書きなさい。

問3 空欄 A、B に適当な単語を入れなさい。

問4 この文章の最後の段落に書かれていることをあなたの母語について検証し、その結果を日本語で説明しなさい。「可能動詞」のない言語の場合は、「可能」を表す表現について考えなさい。

問題3 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

(丸谷才一著「強盗の十則」『月とメロン』文春文庫、25-27頁)

問1 下線部の漢字を含んだ単語 a.-f. を、ひらがなで書きなさい。

a. 奪った    b. 先駆者    c. 重ねて    d. 丁重な    e. 崩さない    f. 目覚め    g. 収める

問2 波線部 1. 「その限りにあらず」が、本文内で意味していることを具体的に説明しなさい。

問3 波線部 2. 「話が逆である」とは、本文ではどういうことか。説明しなさい。

問4 波線部 3. 「巻き込む」について、

A. 「巻き込む」を使って、例文を作りなさい。

B. 「巻き込む」のように、「動詞+込む」という形を持つ動詞を2つ挙げ、例文とともに示しなさい。

問5 波線部 4. 「決め手」について、次の例文 A.-D. の中で、「決め手」という言葉をカッコの中に入れると、文の意味が不自然になるものはどれか。

A. 夫のやさしいところが、結婚の（ ）となりました。

B. 犯人逮捕の（ ）は、現場に残された足跡でした。

C. 何度も電話してようやく、行きたかったコンサートの（ ）を手に入れた。

D. 日本で働いてもこれ以上給料が上がらないと知ったことが、アメリカで働くことになった（ ）です。